

令和 7 年度 第 3 回スマートウェルネスあさひかわプラン懇談会 会議録

○開催日時	令和 7 年 9 月 4 日 (木) 午後 6 時 25 分から午後 7 時 40 分まで
○開催場所	旭川市総合庁舎 7 階 多目的室 (旭川市 7 条通 9 丁目)
○出席者	<p>参 加 者 (6 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部 純平、柏川 貴彦、島津 佑果、村上 幸恵、山田 直行、吉岡 英治 (50 音順・敬称略)</li> </ul> <p>事 務 局 (4 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康保健部 渡辺次長</li> <li>健康推進課 熊崎主査、今主査、秋場主査</li> </ul>
○傍聴者数等	0 人 (公開)
○会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料 1 第 3 回スマートウェルネスあさひかわプラン懇談会資料</li> </ul>
○会議内容	
1 開会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次長挨拶</li> <li>・議題、資料についての説明</li> </ul>
2 議題 (1) [進行役]	<p>議題 (1) 「第 2 次スマートウェルネスあさひかわプラン骨子案について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき事務局から説明</li> <li>骨子案について、意見・質問はあるか。 (なし)</li> </ul>
意見交換 [進行役]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所運営協議会において、目標を高く持った方がいいとの意見があったとのことだが、むやみに上げなくてもよいのではないかとも思う。上げる根拠について意見はあったか。</li> </ul>
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所運営協議会では、前段階で目標値をどのような考え方で設定したか質問があり、これに対し、新型コロナの影響で各数値の進捗が読みづらい状況の中で設定したこと、達成できそうな値ではなく、理想とする値を目標値とした旨説明した。それを受け、2 次プランにおいても達成できる値ではなく、高い値を目標とした方がよいとの意見があったものである。</li> </ul>
[A 委員]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値が達成できない場合でも、振り返ればよいということだと思う。目標値が変わると、取り組む内容が変わることはあるのか。</li> </ul>
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうわけではない。ただ、計画期間の途中でアンケート調査があり評価指標の値が把握できるため、その進捗を見て、より力を入れて取り組む項目がないか検討することになる。</li> </ul>
[A 委員]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この 4 年間の旭川市の人口動態はどうなるか。</li> </ul>
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は多くなり少子化が進む傾向ではあると思われる。</li> </ul>

[A 委員]	・若者が少くなると、平均歩数も減少するのではないか。ほかの項目は関係なさそうだが。
[事務局]	・アンケートは地域や年齢構成等を考慮して実施しているため、過去のものと比較できるようになっていると思われる。平均歩数は属性を分けて集計していないため、人口動態の影響を受けるかもしれない。
[進行役]	・健康寿命を伸ばすための特段の取組はあるか。
[事務局]	・不健康期間を短くすることが目的である。健康部門の取組だけでなく、例えば福祉部門で高齢者向けの運動教室や認知症予防の教室も実施している。様々な分野で地道に取り組むしかないのではないかと思っている。
[進行役]	・日本は世界の中でも自立期間が長い国であり、北海道は雪国でもあるので、健康寿命をさらに延ばすのは難しい部分もあるだろうと思う。
[B 委員]	・市民アンケートの対象者は属性にばらつきないように抽出されるということだが、アンケートの対象者によって評価指標の達成具合が変わるものではないか。
[事務局]	・回収率にもよるが、市民アンケートは単純集計したものになっており、人口比に応じて結果にウエイトかけることはしていないと思われる。市民アンケートは回収率50%以上なので、結果に偏りは生じにくいと思っている。
[B 委員]	・歩数の増加や、健康だと感じる割合は年齢などで変わってくるのではないかと思った。
[事務局]	・歩数の数値は健幸アプリでとっている。母数が大きいため歩数を上げるのは大変だと思う。
[A 委員]	・市民アンケートの回答率を上げるための対策はあるか。
[事務局]	・市民アンケートは市の広報広聴課で実施しており、その結果は総合計画にも活用されている。市の施策評価の項目も含まれているため、ある程度市民の回答の動機付けを高めるような内容になっていると思う。
[C 委員]	・共通方針のうち「人とつながる健幸づくり」に関して、団体等に所属している人はつながりやすいが、個人の人はどうやってつながっていけばよいか難しいと感じた。
[進行役]	・趣味や仕事などで所属がない方はつながっていくのは難しいと思う。
[D 委員]	・評価指標のうち主観的健康観について、基準は人それぞれだと思うが、そこで健康ではないと回答する人が、どうしてそう回答したか分かれば、より健康につながっていくと思う。この点はアンケートで分かるか。
[事務局]	・選択で回答する方式となっており、理由などの自由記載はない。
[進行役]	・難しい設問があると回答率が下がるため、難しい点だと思う。
[E 委員]	・市民アンケートは旭川独自のものだと思うが、例えば「暮らしやすいまちか」への回答は、他自治体と比較できるか。
[事務局]	・他市町村と比較はできないが、定期的に行っているアンケートであるため、時系列で比較することはできる。
[E 委員]	・大きな増減はないか。
[事務局]	・暮らしやすいまちと感じている市民の割合については少しづつ増えてきている。
[A 委員]	・アンケートは何月に実施するかで回答が変化する。実施する季節によって住みやすさは変わるものではないか。
[事務局]	・長期居住の方の回答が多いので、通年の状況を知る回答が多いと思う。

[進行役]	・「健康福祉都市の実現に満足しているか」という設問が分かりづらいと感じるが、それが原因で低い値になっているかもしれない。
[事務局]	・健康福祉都市の例示も合わせて記載しており、言葉の周知にも努めているが、市民にとってはなじみが薄いかもしれない。
[進行役]	・アンケートに回答する方は元々ポジティブに感じている人が多く、未回答の方はネガティブに感じている人が多いと思う。健康だと感じている市民の割合や、暮らしありと感じている市民の割合がとても高いのは、ポジティブに感じている人が多かったからではないかと思う。
[事務局]	・この骨子案をもとに素案を作成する。素案が完成したら、各委員にも御確認いただきたい。
(2)	議題（2）「第2次スマートウェルネスあさひかわプランの取組について」 ・資料に基づき事務局から説明
[進行役]	意見交換の前に質問、意見等あるか (なし)
意見交換	
[A委員]	・情報発信の点で、ポジティブな情報ばかりではなく災害情報や大雨などの情報もあると、利便性が増してアクセス数が増えると思う。「ひぐまっぷ」のような情報や災害情報などはアプリで発信できないか。天候などを見ながら活動を決めることがある。
[事務局]	・旭川市の「くらしのアプリ」では、災害情報やクマの情報も発信している。健幸アプリへもリンクできるようになっている。
[E委員]	・「くらしのアプリ」は市民広報でもあまり見たことない気がする。
[事務局]	・「くらしのアプリ」が一部で知られていないようであるため、相互に周知ができるように考えたい。
[進行役]	・北見ではカーリングが盛んであるが、旭川ではカーリングに関する取組はないか。
[事務局]	・旭川では、ニュースポーツの普及に取り組んでおり、モルックは体験会などが多く開催されていると思う。
[E委員]	・スポーツ協会ではニュースポーツ用品の貸し出しを行っているが、モルックは関心が高いように感じている。ニュースポーツは団体でやる競技が多く、人とのつながりもできるのでは。学校や町内会で借りていくことが多いが、広く使ってほしい。
[C委員]	・ニュースポーツ用品は、ほかに何を貸し出しているか。
[E委員]	・ボッチャ、バッロー、フロアカーリングなどがある。
[C委員]	・貸出しには団体としての登録が必要か。
[E委員]	・登録は不要だが、旭川市以内に所在する団体等（学校、スポーツ関係団体等）に限り貸出をしている。
[進行役]	・市からの発信だけでなく、掲示板機能があるとよい。自由に投稿できることの問題もあったり、コスト面の課題はあると思うが、市民から情報を得ることで広がりができると思う。

[B 委員]	・本日、仕事で関わっている方に健幸アプリ勧めて、インストールをしていただいたが、設定がうまくいかなかった。使い方の紹介動画もあるということだが、アプリの使い方を知っている方を増やすとよいと感じた。
[C 委員]	・デジタルスタンプラリーは楽しそうだが、バリアフリー情報も表示されるとよい。障がい者の方は、行けるか分からぬところはなかなか行けないと思う。
[D 委員]	・若年層の意識向上のところで学校との連携とあるが、町内会の人とつながれるようなイベントが学校で実施されるとよい。地域の高齢者と学校で一緒にスポーツするというのはお互い参加しやすいのではないか。若年層は地域とつながる機会について、情報がなかなかない。
[進行役]	・イベントで、女性高齢者の参加率が高いという指標が出ていた。男性高齢者も外に出られるような取組があればよいと思う。
[E 委員]	・男性高齢者は役に立ちたいという意識が強くあるように感じる。娯楽よりも、何かの役に立てるものの方が参加されるのではないか。
閉会	・雨の日は外に出て歩く気持ちが低下する。雨の日に運動するための靴など、グッズ紹介の動画などがあったらよい。